

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300969
法人名	有限会社 和晃
事業所名	グループホーム 和晃
所在地 (電話番号)	茨城県土浦市若松町5-28 (電話)029-826-1628

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	6 人	常勤 3 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 青洲会 神立病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社長が社会福祉協議会で主に介護のボランティア活動を行っていく中で、地域の高齢者に還元したいとの思いから立ち上げたホームは住宅地に開設され、普通の生活を利用者は過ごしている。管理者の利用者本位のケアの提供という熱い思いは職員にも浸透され、日々、利用者の状況に応じたケアに努めている。地域住民との交流も盛んで、地域の夏祭りやいろいろな行事に利用者は地域の一員として参加していて、地域もホームへの理解を示している。家族会での要望で利用者、家族、職員で一泊旅行にも出かけホームと家族との信頼関係も非常に良い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での主な改善課題はヒヤリハットの活用と緊急時の対応についてであったので、職員会議にて検討し、全職員と改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については管理者から職員に意義と活用を説明し、全職員で各項目に沿って自己評価を実施しサービスの改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、行政2名、民生委員、看護師、利用者家族代表、利用者代表、ホーム関係者の構成メンバーにより開催し、サービスの向上に繋がるように努力中である。会議内容は記録に残してはいるが職員に伝達している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を開催して意見交換の場として提供している。利用者の生活状況や健康状態について、毎月写真等を同封し郵送して報告している。入居時に苦情窓口については、説明をしているほか面会時には意見等を聞くように心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが回覧板等により情報を得ている。地域の一員として公園で開催される夏祭り等に参加し地域住民はホームに理解をしている。環境美化に関してはホームの周辺を職員と利用者が清掃している。中学生の体験学習の場として提供している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社訓のほかに利用者本位のケアに努めることを理念としている。	○	今後は地域住民との交流を視野に入れた運営理念を加えていくことを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング、事務室に掲示し理念の実践に向けたケアの意識付けを行っている。管理者から職員に日常的に具体的に話をし、管理者の思いは職員に浸透しており、それが実際のケアに通じていることが窺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社長が地元住民であるため、自治会には加入していないが回覧等により情報は得ている。近隣、老人会の交流はあり、夏祭りや行事に参加している。畑仕事の協力、おすそ分けを貰う時もある。環境美化に関してはホームの周辺を利用者と一緒に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義、活用は管理者から職員に伝えられている。自己評価に関しては全項目ではないが職員と検討した。前回の外部評価の改善項目につき職員会議にて検討した。	○	自己評価を職員と共に行うことによりケアにあたり、また新たな気づきや問題点も出てくると思われるので次回、自己評価は全項目を職員と検討されることを提案する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、行政2名、民生委員、看護師、家族代表、利用者代表、ホーム関係者の構成メンバーにより開催し、サービスの向上に努めている。前回評価については報告した。会議内容は記録簿として残してはいないが、内容に関し、職員に口頭で伝達している。		

茨城県 グループホーム和晃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連絡は出来るだけ出向いて担当者との意見交換に心がけている。中学生の体験学習を受け入れ利用者との話し相手、掃除、食事介助等を行ってもらい介護について理解の浸透に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況報告、健康状態、金銭報告と共に行事の写真等を同封し毎月報告をしている。緊急時には電話にて連絡後、記録に残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見の場の提供や苦情窓口を入居時に説明し、重要事項説明書にも明記している。面会時に意見等がないか聞くように努めている。家族会を年2回、公民館や福祉センターで開催し意見の場を提供している。その中で一泊旅行の話が話題に上り、職員・利用者・家族と出かけることができた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の相談や意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。現在は職員が変わっても利用者の変化はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習会は外部、内部を問わず職員が積極的に参加している。受講後は会議等で報告し記録に残し、職員がいつでも見れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームの見学、行政主催の地域密着型サービス会議に参加し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。管理者のみならず、他ホームの見学に職員自ら出向いている時もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に対し、事前調査を実施した上で、家族、利用希望者にホームに来てもらい、雰囲気や利用者同士、馴染むようにしている。体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩から沢山学ぶことが多く、戦争体験、地方の風習、お料理、味付け等は毎日教わっている。その時は素直に感謝の気持ちと人生の先輩のおかげで今があるということを、言葉にして伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全て利用者個人個人に応じた支援が行えるように、職員は日々ケアに努めている。意向の把握の困難な利用者に対しては家族から要望を聞いたり、その時の利用者の表情から判断し、ケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望を聞いたうえで、定期的にヘルパー会議を開催し、利用者への状況に応じたケアを課題とし計画書を作成している。計画書作成後は家族へ送付し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヵ月毎に介護計画サービス計画書の評価を行った上で見直しを行っている。期間を設定しているが、必要に応じ現状に即した新たな計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば家族の宿泊は可能である。地域の介護相談所としてアドバイスをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診を促している。職員による送迎で受診できるようにしている。家族と連絡を取り合いながら行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時や面会時に話はしており、将来的には行っただけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会時の情報は事務室か居室にて行い、書類関係は事務室にて保管し個人情報の管理を徹底している。利用者に対する言葉かけは穏やかにゆったりとし、利用者や職員の信頼関係を垣間見ることが出来た。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に優先することなく利用者本位の生活サイクルで支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることをやってもらい、料理、味付け、盛り付け、配膳等で夫々が楽しそうに職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。全介助の利用者が3名いるため職員は一緒には食べないが利用者と楽しい会話をしながら支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日は決めているが利用者の希望に応じた支援をしている。拒否者に対しては無理強いせず、時間をおいて声掛けをしたり、清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族、利用者からの聞き取りから得た今までの生活歴、職歴を把握し利用者の得意とする分野で役割をしてもらっている。利用者はのびのび、また得意げに能力を発揮しているとのことである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気のよい日は必ず散歩、買物、外食、ドライブに出かけ外気に触れることによりいろいろな刺激を吸収している。調査日も好天気であったので、希望者は買物に出かけていき、帰宅後は購入した服を早速着て楽しそうにしている利用者の姿があった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向の利用者に対しては職員が注意して見守っている。施錠をかけることの弊害を理解し鍵はかけていない。近隣への協力依頼は要請している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の自主訓練を開催している。(消火器の扱い方、夜間想定、緊急連絡方法等) 非常食の備蓄はしていない。	○	地震等によりライフラインもストップすることも想定し、飲料水、缶詰等非常食の備蓄をするのが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者の個人的な知り合いの管理栄養士が利用者の好みの献立を立てている。カロリーや水分の管理の必要な利用者に対しては医師からの指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には博多人形や利用者がタバコの空き箱を利用し製作した傘が飾られている。ホーム全体が施設化せず、家庭的な雰囲気を重視し居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた机、いす、たんす等が設置されたり、壁には家族の写真が飾られ利用者が安心できる居室である。		